

SANS FRONTIÈRES

vol.42

水戸葵陵高等学校ホームページ <http://www.kiryu.ac.jp/>

進路指導部長より

自宅学習が多い1月、読書について進路指導部長の萩原先生にお話を伺いました。

■ネットの情報 vs 読書

ネットの情報は便利（情報が最新、検索は容易、世界規模の情報）だが、

①信用性が怪しい、編集者などの添削がない ②断片的で、偏った側面のみ内容である
読書は、有料、情報が古い、本屋・図書館へ移動など、不便だが、

①情報の信頼性が高い

②情報だけでなく「意見」が取り入れられていることが多く、筆者はどのような思考で
「意見」にたどり着いたのかが分かる

③ネットよりも読書の方が「知識＝意味のある情報」を得やすい。ネットではデータの羅
列または情報の掲載のみで、そこから意味のあるものに構築されていないことが多い

■体験 vs 読書

・体験しなければ真の理解ができないものもあるが、歴史的なことを全て経験することはでき
ない。歴史上の人物のみならず、世界中の人々の経験・考えを読書で習得できる。

・レジャーでも体験型施設が増え、見る・聞くという受動的なものから、体験的なものへ移
行。しかし、深い理解をするためには、経験だけでは不十分。「百聞は一見にしかず」という
言葉から、聞くより見た方がより深い理解を得られるとされるが、読書を通してその「見方」
を考えることは大切。

■動画 vs 読書

・数十年後、読書とは一部の人々の趣味となり、本は動画やVRに取って代わるかも知れな
い。しかし、現段階ではテスト・文庫本・新聞・雑誌などは文章で表現された物が中心であ
る。文章から場面を想像し、文章から登場人物の考えを理解することが必要であり、そのト
レーニングの一環として読書が挙げられる。

担任の先生のおすすめ

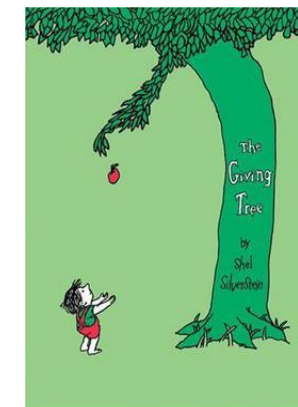
【黒澤先生】医学・医療概説[改訂版](河合出版)



「プライマリ・ケア」、「地域医療」、「在宅医療」、「ゲノム編集」、「移
植医療」、「緩和医療」、「終末期医療」、医歯薬コースに在籍するみ
なさんであれば、一度は聞いたことがある言葉だと思います。それ
では質問です。「それぞれの定義、問題点、解決策を言えますか？」
大学入試は1点で合否が変わってきます。同じ大学を目指す生徒達
は学力的に拮抗している場合が多いため、学力以外の面接・小論文
で差がつきます。そのため、医療系の大学を目指す上では、勉強を
頑張り偏差値を上げることも重要ですが、医療系の知識を入れるこ
とも重要になってきます。

今回、紹介する本は医学部進学者向けですが、医療系全般の内容（上のキーワードも含め）
が細かく書いています。勉強以外で他者と差を付けるために、早い段階で読んでみてはどう
でしょうか。

【遠城先生】おおきな木(原題:The Giving Tree)



The Giving Tree is an American children's picture book written and illustrated by Shel Silverstein.

First published in 1964, it has become one of Silverstein's best-known titles, and has been translated
into numerous languages. Here is the plot summary.

The book follows the lives of a female apple tree and a boy, who develop a relationship with one
another. The tree is very "giving" and the boy evolves into a "taking" teenager, man, then elderly man.

Despite the fact that the boy ages in the story, the tree addresses the boy as "Boy" his entire life...

もし「先生の一番大切な本は何ですか？」という質問をされたら、迷いなく、この本を選びます。自分自身に迷いがあるとき、ふと読みたくなる一冊。ぜひ英語で読んでみて下さい。そして是非、英語学習者のみなさん！

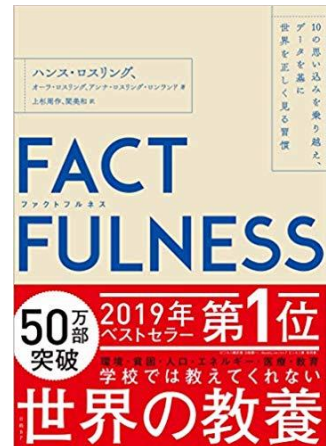
英語学習に**多読**を取り入れてみてはいかがでしょうか？

とっても簡単に始められますよ。(以下、多読の三原則)

1. 辞書は引かない→できるだけ英語を日本語に訳さずに、英語を英語のまま読む。
2. わからないところは飛ばす→前後から推測することさえしないで、単に飛ばして先に読み進む。
3. おもしろくなかったら投げる。→楽しく読めない本だったら、ほかの楽しめそうな次の本に移る。

多読を続けるコツは自分のレベルにあった本を選ぶこと。「合わない」本を無理して読む必要はなし。絵本や児童書には、基本的で大事な言葉がたくさん使われています。安心して、楽しめるものを、好きなものだけを読み進めてください。英語力を上げる方法って、実はこんなにもシンプルなのかも。

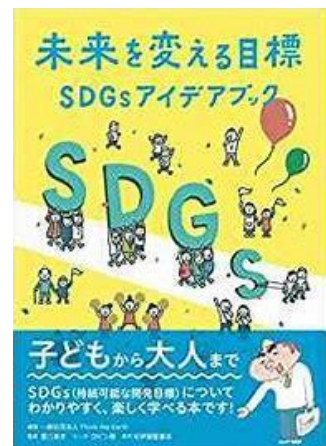
【飛田先生】



FACTFULNESS ハンス・ロスリング(2019)

本書は13の質問から始まります。たとえば、現在、低所得国に暮らす女子の何割が、初等教育を修了するか。世界の人口のうち、極度の貧困にある人の割合は、過去20年でどう変わったか。世界中の1歳児の中で、なんらかの病気に対して予防接種を受けている子供はどのくらいいるか。こうした質問に対して、超有名大学の学生を含め、すべて正しく答えられる人はほぼいません。その理由は、人間が数字を重要視せず、思い込みでものを語るからなのだ、と筆者はいいます。マイクロソフトのビルゲイツが世界中の学生に無料配布すると発表したことを端緒に世界中で反響を呼んだこの本は、日本でもSNSで大きな話題を呼び、発売から、1ヶ月で20万部を超えるなど、ビジネス書として異例のベストセラーとなりました。データを正しく用い、世界の事実を的確に読み解くヒントとなる本。知識があれど、感覚でものを語ってしまう読者の性が、実例と数字とともに露わにされます。もしあなたが医師ならば、下痢を催している子と臨死の子と、どちらに時間を割くべきだと思いますか。医師として活躍してきた著者の実体験は衝撃的で、倫理的にも考えさせられ、医療人を目指している人にとって一読の価値があります。ちなみに、旭川医科大学を始め、医療系の入試問題としても複数引用されており、これからも引用されるでしょう。教養を身につけながら入試対策にもなる一挙両得の本です。

【佐藤先生】



「未来を変える目標 SDGs アイデアブック」Think the Earth 編著、蟹江憲史監修、紀伊國屋書店(2018)

2015年9月、193の国連加盟国の全会一致によって2030年までの「持続可能な開発のための目標 Sustainable Development Goals: SDGs (エス・ディー・ジーズ)」が採択されました。一方、日本では小・中・高等学校の新学習指導要領に持続可能な社会の創り手の育成が学校の役割であると明記されました。いま、国内外で、あらゆる領域でSDGsへの取り組みが広がっています。高等学校では2019年度より「総合的な学習の時間」(総合学習)が「総合的な探究の時間」(総合探究)に名称変更し、SDGsをテーマに探究活動を行う学校も増えてきています。

本書はSDGsについて楽しく学べるビジュアルブックになっており、インフォグラフィックや写真、マ

ンガなど様々な表現方法でSDGsの情報やメッセージを伝えています。世界や国内の事例も豊富でアイデアにこだわった紹介がされています。とにかくわかりやすく読みやすい内容になっています。SDGsについて知るためにまずはこの本で学んでみてはいかがでしょうか。

いのちの学習会

令和元年12月21日、いのちの学習会が開かれました。

講師は臓器移植患者団体連絡会理事、見目政隆先生です。

先生はレシピエントのご家族としての体験を話してくださいました。

アメリカでの移植。息子さんに続いて娘さんの発病、「10%ルール」とその時の医師の行動。どれもたいへんな体験だったと思いますが、多くの人が驚くのは、帰国後、臓器移植法の改正のために活動なさったことではないでしょうか。

講演後にお話しさせて頂いた時、「その行動力のエネルギーはどこからきたのでしょうか」とお尋ねすると、「使命感です」とお答えになりました。「子供を助けてもらったのだから、何かしないと」と。

医歯薬コース生も、臓器移植やいのちについての考えを深めたようです。

「家族と臓器移植について話し合いたい」「自分に何ができるかを考え、行動にうつしているところに感動した」(1年)



かさま陶芸の里ハーフマラソン大会ボランティア

医歯薬コースでは、多くの生徒が毎年この大会のボランティアに参加しています。

今年は12月15日、28名の生徒が、給水、記録証発行、スूपサービス、誘導の各部署で活動しました。

東京オリンピックで笠間市がエチオピアチームのホストタウンであることから、交流事業として今年の大会にはエチオピアのオリンピックメダリストや現役選手が招かれおり、外国の選手との交流をする機会もあったようです。

「エチオピアのテントに行ったとき、日本語と英語を交えた会話を行なった。エチオピアの文化などを知ることができた」(1年)

「色々な年代の方と一緒に作業したり話したりする楽しさを感じた」「地域の方とのコミュニケーションを通じて多くのことを学ぶことができた」(2年)